

**地球環境には「褐色の問題」と「緑色の問題」がある**

■ **褐色・・・地球温暖化など開発地で生活する人の行為の影響**

非生物的環境の問題、社会的・技術的に修復可能なもの。難度は大。二酸化炭素・排ガス・オゾン層・エネルギー消費と汚染・廃棄物等の問題。直接、自分たちの生活に連動して発生する問題。私たちの自覚の問題。

■ **緑色・・・植物・生物などの多様性と生態環境保護育成など**

生態系の問題、生物の絶滅、保全修復などの問題・復活不可能。

**環境問題への対処・科学と哲学に変化が訪れた**

■ **地球は閉鎖系であった・・・一つの生命体としての地球**

限られた地球空間では、ものはすべて「元のかたちにして元のところへ戻す」ようにしないと許容限界を超えてしまうことを自覚した。地球を開放系としてみていた20世紀半ばまでは、汚染物・廃棄物などを、自分たちから遠い所に拡散させてきた。

■ **多様な生命と物質が複雑に連鎖する地球**

生物と非生物が絡まった自然の複雑さが地球環境問題の難しさ現象化させている。従来



**循環・再生と共生の思想**

閉鎖系の地球環境・・・「循環・再生の考え方」  
複雑な連鎖の地球・・・「共生の考え方」

20世紀の科学・技術では、自然のごく一部しか解明しないことが明白となる。  
個々の問題への対処が良くても、複合した全体には不適正な解決策となる可能



**複合した全体からの発想・・・歴史性の価値を知る**

細分化した科学技術との整合 歴史・伝統・継承の認識と知識をベースとすることが重要

35億年にわたる生態の働きによって創られてきた地球の姿は、歴史的にお互いに関連してきた結果・・・自然についての現象は広い意味での「地球複合体の共進化」の産物

■ **持続的開発・・・サステナブル デベロップメントとは**

「正しい状態を保たせ、ゆっくり展開させていくこと」という意味。  
日本の現状がいつそう開発され、経済的に増大し続けていくという意味ではない。  
1992年の地球サミットの主題が持続的開発であった。・・・アジェンダ21「温暖化防止」  
「生物多様性」・環境と発展に関する国連会議  
地球規模で考えると「エネルギー消費」では北半球の国の消費量に南半球の国々が達すれば全体として地球を破滅させるような消費量になってしまう。現在少なくとも北半球

■ **地球サミットでの議論・・・伝統的知識に改めて学ぶ必要がある**

世界中にある多様な人間の文化は、生物多様性を含めた自然の多様性を拠り所とし、その相互作用の中で創られたものである。  
「従って、逆に今後の自然の多様性を考え、それを維持発展させるには、伝統的文化の多様性が重要な鍵と意義をもっている」と考えられはじめています。  
地球環境問題の解決のためには、物質的な問題だけでなく、文化的な広い問題に関しても科学的な知識と伝統的な知識を総合して、世界の現状を把握しながら、全体的に対処

## ■スピーカー1 : 過去からの視点・・・伝承される日本のエコロジー思想

日本の環境と歴史文化土壌・長所・神秘的特徴などをもとに考察

### 「鎮守の杜とエコロジー」

鎌倉八幡宮禰宜 當麻洋一 (K5・副コミ)

#### 1. 「門松」と「いやさか」

「常緑」→日本人の「歴史観」(循環史観)

・・・「弥栄」お正月に何故門松・「竹」と「松」・神様を招く  
日本人の時間観・歴史観と「常緑の森」の意味。

#### 2. 「コメ」と「まつり」

森が山を守り・山が田を守る

・・・日本人の「自然観」(自然との共生)

稲作と日本の風土・森と山と水田の關係に触れ、古くから「自然との共生」を図ってきた日本人の自然観。

#### 3. 「まつり」と「鎮守の杜」

「まつりの庭」→地域社会のコミュニティー。豊作を祈る農耕儀礼が共同体の紐帯であった時代。「鎮守の杜」は地域社会のコミュニティー機能として存在していた。

#### 4. エコロジーは鎮守の杜から

戦前からあった！環境運動

・・・南方熊楠「神社合併」反対運動について

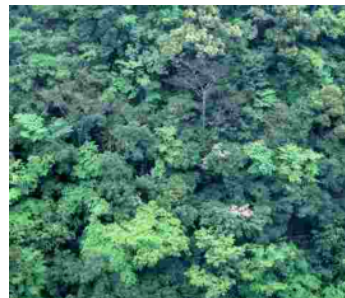
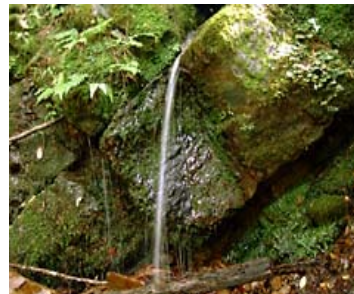
大正時代、政府により画一的により推し進められた「神社合併」政策に敢然と抵抗し、生物学者であった昭和天皇にも影響を及ぼした「南方熊楠」の活躍から環境活動の原点を説明。

#### 5. 人のこころが森を守る

日本のナショナルトラストは湘南から

・・・「鎌倉・御谷騒動」→開発と八幡宮の杜

昭和40年台初頭、迫り来る開発の波から「八幡宮の杜」を守り、日本のナショナルトラスト運動の先駆けとして、「古都保存法」制定のきっかけともなった「御谷騒動」に触れた湘南地域と環境運動の関わり。



## ■スピーカー2 : 未来への視点・・・世界の様々な自然と人間の関わり

ユニークな都市・奇想天外な集落・映像表現の未来都市を基に考察

### 「自然と人間・これからを考える・・・」

建築・都市環境設計 増田多加男 (F8・YPT)

#### 1. 「古都・京都」環境思想：風水・四神相応

未来永劫の発展と平穩を願って構築された都。

中国の風水思想に基づく。

平安京は、北に船岡山、東に鴨川、南に巨椋池(おぐらいけ)、西に山陽道があり、まさに四神相応の地。更に数多くの寺社などを配して守りを固めていて怨霊を防ごうとした。平家物語の一節「左青竜、右白虎、前朱雀、後玄武、四神相応の地なり」。

#### 2. 世界「環境と一体化した多様な自然発生的集落」

・水上集落・砂漠集落・山岳都市

・地下住居・石切集落・風の町・自然の力と呼吸する町

・「客家：はっか」秘密結社の中国の集合住宅群

・隕石跡を利用した古代劇場

・生木を掘り込んだ家・墓地と一体化した住居など・・・

#### 3. 日本の姿：その希望と絶望のイメージ

・・・漫画に描かれた日本の未来都市

手塚治虫 「1950年：アトム、宇宙空港・楽観的な高層都市」

旭太郎 「1940年：火星探検・現在の上海・バブルイメージ」

横井福次郎「1940年：不思議な国・空中散歩が可能な都市」

大友克洋 「1980年：AKIRA・テロと破壊の環境」

士郎正宗 「1987年：アップルシード・植物化した都市」

#### 4. その当時の変形としての未来イメージ

・・・映画の中の未来都市

1926年「メトロポリス」・・・ユートピアでない未来像

1982年「ブレードランナー」・・・2019年テロと環境汚染・差別都市

1986年「未来都市ブラジル」・・・近未来テロが頻発する情報都市

1998年「フィスエレメント」・・・23世紀・都市の浮遊移動空間

#### 5. 自然を生かした環境国家としての未来

・・・森の文化・自然と一体化した国

縄文時代：森資源・栗植林などの樹林地域形成

弥生時代：里山文化・稲作文化の発展と水利用